

## 15 欲求と適応機制

### はじめに

学習指導要領にどのように書かれているかを確認することから始めます。この単元は学習指導要領上の位置づけとしては、

|         |             |
|---------|-------------|
| ウ 精神の健康 | (ア) 欲求と適応機制 |
|---------|-------------|

の内容に該当します。

指導要領解説には、

精神機能は、主として大脳によって統一的・調和的に営まれていることを理解できるようにする。また、人間には様々な欲求があり、欲求が満たされない時には、不安、緊張、悩みなどの精神の変化が現れるとともに、様々な適応機制が働き、精神の安定を図ろうとすることを理解できるようにする。

なお、大脳の機能、神経系及び内分泌系の機能については、必要に応じて扱う程度とする。

内容の取扱いでは

(1) のウについては、大脳の機能、神経系及び内分泌系の機能について必要に応じて関連付けて扱う程度とする。また、「体育」における体ほぐしの運動との関連を図るよう配慮するものとする。

と書かれています。

#### 【理解できるようにすること】

○精神機能は、主として大脳によって統一的・調和的に営まれていること。

○人間には様々な欲求があり、欲求が満たされない時には、不安、緊張、悩みなどの精神の変化が現れるとともに、様々な適応機制が働き、精神の安定を図ろうとすること。

#### 【必要に応じて扱う程度とすること】

○大脳の機能、神経系及び内分泌系の機能について

### 授業づくりの実際（指導と評価の一体化を意識して）

内容の取扱いの(8)には、指導に際しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。となっています。これは、「保健」の指導に当たっては、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力等を育成していくことを示したものである。指導に当たっては、ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング（役割演技法）、実習や実験、課題学習などを取り入れること、地域や学校の実情に応じて養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員など専門性を有する教職員等の参加・協力を推進することなど多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することを示したものです。

《例示》

【知識・理解】→指導方法と評価方法の検討

○大脳辺縁系の働きについて

○大脳新皮質の働きについて

○欲求と情動のコントロールについて

○さまざまな欲求について

○欲求と欲求不満について

○適応機制について

【思考・判断】→指導方法と評価方法の検討

○自分の生活を振り返り、どのようなときにどのような適応機構を使ったかを書いてみよう。

【関心・意欲・態度】→評価方法の検討

○今日の学習のどの場面でどのように評価するか。

上記の指導方法や評価方法を念頭に、指導内容の順序や発問の仕方、知識を活用する学習活動の取り入れ方などを工夫し、1時間の授業を組み立てていきます。

### 本単元のキーワード

「大脳辺縁系」「大脳新皮質」「生理的欲求」「心理的欲求」「欲求不満」「葛藤」「適応機構」